



未来へつなぐ

力を合わせ希望を持てるまちへ

さくら会メンバーのごあいさつ

 村田 稯史 議員 むらた じょうじ	 山口 文明 議員 やまぐち ぶんめい	 清宮 誠 議員 せいみや まこと	 中村 孝治 議員 なかむら こうじ	 櫻井 道明 議長 さくらい みちあき	 川名部 実 幹事長 かわ な べ みつのる	 押尾 豊幸 会長 おし お とよひさ
 望月 庄子 議員 もちづき あつこ	 高木 大輔 議員 たかぎ だいしち	 敷根 文裕 議員 しきね ふみひろ	 平野 裕子 議員 ひらの ゆうこ	 為田 浩 議員 ためだ ひろし	 石渡 康郎 議員 いしわた やすお	

6月定例議会 個人質問



敷根 文裕 議員

佐倉市の住生活環境について

問 不動産公示価格において千葉県平均はプラスであるのに佐倉市は住宅地変動率がマイナス1.4%、調査対象となった千葉県53市町村のうち50位でワースト3位である。どのように考えているのか伺う。

答 今まで佐倉市の土地が割高であったものが適性価格に落ちついてきたと考える。

【意見】 下がり続ける土地の価値について何も対策を打たなくて良いのだろうか？

問 マイナス変動率が高い土地は安く購入出来る反面、将来の資産価値が下がる可能性が高く新規購入者から嫌われる傾向もある。しかも市内は一年で4%以上価値が下がり空き家が急増している団地もある。こうした団地も再生モデル事業対象となつていくが、今後どうするの伺う。

答 団地で住民ワークショップを行つていく。

【意見】 3年前前から再生モデル事業の話も聞いているが一向に進んでいない気がする。早く

ICTを活用した市役所の事務作業について

問 人口減少や少子高齢化に応じて税収が減少している一方で道路や公共施設などインフラの維持費が必要になり、少子高齢化が進展していけば扶助費も増加する。市民サービスも高度化、多様化していく中で市民サービスを維持向上させることは持続可能なまちとして不可欠と考える。そのためにICTを活用した行政情報化や業務改善が必要となるがその中で市民総合窓口、ワンストップサービスについてどのように検討しているのか伺う。

答 本庁は建屋の配置の問題があるが今後、一つの窓口で様々な市民サービスに対応できるような利便性向上をはかつていく。

問 続いて事務作業引継ぎについて伺う。以前勤めていた民間企業では業務マニュアルやトラブル事例データベースを作成しイントラネットで共有していた。その結果、担当者が異動しても対処が出来ていた。

答 マニュアルが出来ると事務作業が大幅に短縮され市民にとってサービス向上に繋がると考える。記録し知識を積み上げていく事が必要なのではないかと思う。市の考えを伺う。

【意見】 職員が得た業務知識や経験を職員間で共有することにつきましては、市民サービスや職員の業務遂行において非常に有用なものであると認識している。マニュアル検索やトラブル対応の情報蓄積手段の構築など、情報共有の取り組みにつきまして検討したいと思う。

6月定例議会 個人質問



高木 大輔 議員

地方自治法154条について

問 「普通地方公共団体の長は、その補助機関である職員を指揮監督する」と定められている。この規定は、長の執行権の及ぶ範囲内において、職員に對しその意思に従わせることを要請するもので、市政の執行に際して非常に重要と考えるが、教育委員会等の執行機関との連携も含め、市長の考えを伺う。

答 法律の要請があることを常に念頭におき、行政組織が一体となり、議会の理解をいただきながら市政運営に当たっていく。

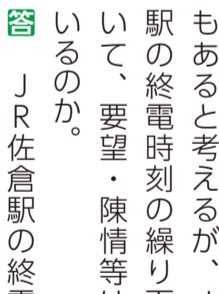
【意見】 154条を意識して行政運営に当たる事を希望する。

問 公益通報制度の促進を図る上で意義があるものと考えているので正式に情報提供がされまじたら広く周知に努めてまいります。

答 公益通報制度の促進を図る上で意義があるものと考えているので正式に情報提供がされまじたら広く周知に努めてまいります。

***今回は地域猫問題、フィルムコミッション、広報刷新、ICT教育環境の改善、色覚チェック導入など質問していただきます。ぜひ議事録をご覧ください。**

6月定例議会 個人質問



敷根 文裕 議員

JR佐倉駅の終電時刻の繰り下げについて

問 定住人口の確保において、佐倉から都内に通勤するには、JR佐倉駅の終電時刻は「0:23」をのばすことが、佐倉市に人口を呼び込むための施策で

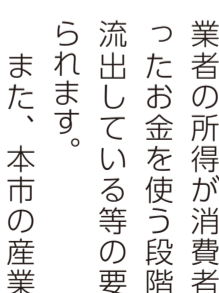
答 法律の要請があることを常に念頭におき、行政組織が一体となり、議会の理解をいただきながら市政運営に当たっていく。

【意見】 154条を意識して行政運営に当たる事を希望する。

問 団塊ジュニアが、高齢者となる2040年には超高齢社会となります。今こそ、暖房合わせの財政から決別し、高齢化社会対策や自然災害への対処などの社会資本整備に積極的に取り組む必要があります。

答 農業従事者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加などにより将来の展望が見えない中、佐倉市の農業者自身、農業委員会、行政議会が一体となって農業の維持、発展を私と一緒に真剣に考えてまいります。

6月定例議会 個人質問



高木 大輔 議員

市内産業の活性化について

問 千葉県全体から見た佐倉市の商工業の課題、特色はどのようなことが取り上げられるか？

答 課題は国が公表している地域経済分析システムによると、地域経済の自立性を示す指標である地域経済循環率が本市は64.5%となっており、千葉県の平均が83.6%であるので、これと比較すると約20ポイント低くなっている。

値が低い理由は、市内にお金を落とす場所が総体的に少ないことなどから、市民や事

問 ターゲットを意識した情報発信など、複数あるSNSを戦略的に運用しているのか伺う。

答 シティプロモーション戦略のターゲット層とSNSを積極的に活用する年齢層が重なっていることから、地域創生課を中心として庁内横断的に取り組む。

【意見】 神奈川県葉山町の情報発信の取組みが交流人口・定住人口の確保の観点から成果を出しており、他市の先進事例など調査し佐倉市にあったSNS戦略の運用の検討を要望する。

6月定例議会 個人質問



敷根 文裕 議員

SNSにおける情報発信

問 また、本市の産業構造の特徴ですけれども、経済センサスによりますと、産業別の売上高について製造業の占める割合が本市は約33%、千葉県は約19%、従業員数につきましても本市が約19%、県は約11%でございますので、県平均を大きく上回っており、製造業が本市を支える産業の一つであることが伺える。

【意見】 市内の所得を佐倉市内の地域経済を循環させる仕組みを商業施設や市内事業者と連携し検証する必要がある。

問 「さくら会会則第3条」
「さくら会」は、地方分権が進む中で、議員の倫理及び資質を高めて、佐倉市議会のより一層の充実を図るとともに、快適で安全な佐倉市を創ることを目的とする。

「さくら会会則第3条」
魅力あるまちづくりのため、少子高齢化対策の充実をもとより、産業振興や観光振興などに、佐倉市の地域性や魅力を活かせる施策を推進いたします。

私たちの生活を取り巻く環境に天災や事故が次から次へと襲ってきています。まずは命を守るための普段からの備えと準備の充実をさらに進めてまいります。

災害への備えだけでなく自治振興の為に、地域の皆様のつながりや協力体制の構築がとても重要であり、更なる支援策の拡充が図られるよう推進して参ります。

7年連続の人口減少と高齢化の急速な進展に伴い医療・介護の充実、人手不足の解消にむけて総合的な少子化対策に取り組んで参ります。

わが市の議員の一般質問



清宮 誠 議員

6月定例議会 代表質問

少子化対策について

「政治とは、情熱と判断力の2つを駆使して、堅い板にじわっ、じわっと穴をくり抜いていく作業だ」とM・ウェバーは言っている。私達は、中央から来るデータを活用しているが、ともすればその数字に左右されて、佐倉の独自性を見落としてしまっていないか？判断の根拠から、佐倉の独自性を見失わないようにというのが、今日の質問の趣旨です。

問 そこで質問です。私達が今期に残された時間は1年ですが、人口減少、少子化問題等、喫緊の課題をどうするか？この1年で重点的に何が出来たのか？それらを次期にどうつなげるのか？

答 人口は自然減だが、転入超過となっている。本年、地方創生課を創設し、佐倉の魅力により高め、交流人口、定住人口の維持増加へ、結実させていく。

問 シティプロモーション戦略の中で、日本遺産を一つの切り口として、佐倉市の魅力発信や広域での連携を生かしていくとあるが…。

答 北総四都市は、貴重な歴史資源として4市が協同でプロモーションすることにより、他市との対比で城下町としての性格等が際立ち、交流人口も、4市を回遊することで、他市からも集客が可能になる。

問 それは理解するが、佐倉城が土と地形を生かした城で、素晴らしいとパンフレットで評価しながら、石碑を建てる等という、来街者を惑わす愚行には、今後、御留意頂きたい。幸い、佐倉市在住の4名の親善大使に御就任いただいたので、後指導等、御活躍を期待したい。

学校施設の改修について

問 少子化対策の中で、学校の問題も課題が山積しており、具体的には、生徒の学習環境、学校施設の改修についてです。

答 人口流入の傾向として、子どもが小さい内に転入する世帯が多いとか。その理由は、子どもが小中学校在学中に転校しないで済むように、就学前に住まいを定めたいからとか。落ち着いた環境の中で、教育を受け

させたい。学校環境が整備されており、その中で、学力の定着向上に資する質の高い教育がなされていること。さらに、学校施設は全国的に、昭和40年代から50年代にかけて建設されているので、建物や設備の多くは老朽化が進んでいる。また、災害時には避難所としての役割も伴う。雨漏り等が生じている施設もあると聞いている。このような状況下で子供達が学び、生活の場でもある学校施設の改修はどのように進めて行くのか伺いたい。

答 平成30年度は、間野台小学校体育館の屋根落下防止工事。雨漏り防止対策としては、屋上防水工事を寺崎小、和田小、山王小、志津中、佐倉東中の5棟。床の改修工事は、佐倉小、千代田小、佐倉東中、根郷中の4校で実施します。

佐倉市のポテンシャル エネルギーについて

問 冒頭に申し上げましたが、30年後には生産年齢人口が、佐倉市の人口の5割を切ってしまう。そして市民の4人に1人が75歳以上になる。そうした社会にあって、本市が持続可能な「まち」として活力を維持し、さらに発展出来るよう、今からあらゆる布石を打っておくべきだと考えております。佐倉市には、歴史・自然・文化といったポテンシャル（潜在）エネルギーが存在し、しかもそれらが市



村田 穰史 議員

6月定例議会 個人質問

市長公務の透明性を確保するよう要請！

「市長の市政や公務に対するお考えについて」と題し質問しました。

通常、質問前には正確な答弁を得るため、又、スムーズな進行のために、市執行部との打ち合わせを実施するのが一般的です。しかしながら、事前に打ち合わせをする事により、市執行部側が事前に質問を入手し、市側に不利にならないような答弁を準備できてしまつというデメリットもあります。

市の問題などを指摘しようとしている時、あたかも問題はないような答弁を準備されてしまつのを防ぐため、今回の質問は事前打ち合わせをせず、いわゆる「がちゃん」のやり取りを行ないました。

問 (自家用車で公務に向かっているが) 誰が運転していたか。
答 知人が運転した。
問 その方は、市と利害関係はある方か。
答 詳細はわからない。

内に点在しております。例えば世界的に貴重なヘリテージローズを保存し、展示している佐倉草がえの丘のバラ園、美術館の内容の素晴らしさ、全て世界的にも高く評価されており、市の内外から多数の皆さんにお越し頂いております。これは即ちポテンシャルエネルギーが顕在化していることでもあります。旧佐倉城にある国立歴史民俗博物館のくらしの植物苑が育て展示している男性遺伝の等、世界的に見ても特異なものであり、魅力でもあるのですが、これ迄、十分に光が当たって来なかった面もありました。統計数字を鵜呑みにせず、佐倉市の事実を検討して、これまで職員が汗水流して積み上げて来た結果を統轄する中で、是非、これも生かして頂ければと思います。職員の皆さんのご尽力に深く感謝しております。

職員の時間外勤務時間の縮減

問 昨年6月定例会で、時間外労働について指摘したが、それでもまだ長時間労働が生じている。民間企業と仕事の内容及び質が異なることを考慮しても、これは座視できない。長時間労働は、健康の確保、仕事と家庭生活の両立を困難にし、少子化の助長、女性のキャリアアップ形成を阻害する要因にもなる。この1年間、市は時間外勤務時間の縮減にどのように取り組んできたか。

答 所属長及び職員間で時間外勤務状況を共有できるシステムを導入、コスト意識を持ってマネジメントを行い、時間外勤務手当の予算執行状況も確認できるようにした。その結果、前年度と比べ時間数にして、1万5900時間(5.9%)、手当額は約3千300万円縮減できた。

市民の健康づくりに ついて

問 我が国の平均寿命は男女とも世界の国々の中ではトッ

町内会があることが前提でないと機能しなくなってしまうことが多々あると考える。暮らすという意味で一番大事になってくるのは実際の住まいにかかわる隣近所のコミュニケーションの充実。人は必ず年をとり、助け合いが必要になってくる。子ども達への温かい見守り、持続可能な自治会、町内会活動等への後押しとなるような策を進めていただきたい。

答 教職員が現場において指導を行い、保護者には文書で知らせ、家庭からも指導していただくように働きかけを行っている。併せてスクールガードボランティアの方々にも状況をお知らせし地域の協力を得ながら安全指導に取り組んでいく。



望月 庄子 議員

6月定例議会 個人質問

健康の推進について

問 本市は不妊にならない健康づくりを推進しているが、妊娠して胎児に影響を及ぼす風しんの感染予防策を伺う。

答 適切な時期に定期予防接種を実施し、接種時期に応じた周知啓発と接種勧奨を行っている。
【要望】妊婦が風しんに感染すると厳しい状況下で出産、子育てをしなければならぬので予防の強化をしてほしい。

安全なまちづくり について

問 登下校時の子どもたちの一

レベル。平均寿命と健康上、日常生活が制限されることなく生活できる期間である健康寿命の間には、男性で約9年、女性では約13年の差があるといわれる。佐倉市で疾病予防を考える上でどのような疾病が影響を及ぼしているか見てみると、国の傾向と同様に、悪性新生物(がん)、心疾患、脳血管疾患の順に高い割合になっており、これによる死亡割合は国、県に比べてやや高い状況にある。市では、40歳以上の人を対象として胃、肺、大腸等のがん検診が実施されており、病気が発見されたとしても、早期に治療を受けることが極めて重要となる。そこで、平成29年度の受診率と検診の更なる受診率向上に向けて、どのように取り組んでいるか伺う。

答 40歳以上を対象とした平成29年度のがん検診の受診率は、胃がん検診は12%、大腸がん検診は16.2%、肺がん検診は16.6%と平成28年度とほぼ横ばい。

がん検診の目的は、がんを早期に発見し、早期に適切な治療につなげることで、がんの死亡率を軽減することにある。がん検診対象者への受診券の発送、がんの罹患率が高まる年代への未受診者勧奨に加えて、新たに受診券発行時にがん検診の有効性や精密検査の重要性などを説明した資料を対象者全員に同封し、啓発に努めている。

層の安全対策を伺う。

答 命を守る視点で、教職員やスクールガードボランティア、教育委員会職員のパトロール、警備会社の巡回、警察等と緊密な連携を図っている。
問 安全に配慮された公園管理を行っているが、西志津スポーツ等多目的広場の女子トイレに不審者があらわれた犯罪のない安全なまちづくりのため防犯カメラの設置が有効ではないか
答 市は現在139台のカメラを設置している。効果的な防犯カメラの活用を図っていく。

農業の推進について

問 世界の人口は2050年には98億人となり、県は農業産出額4500億円、全国第2位を目指し輸出促進を図り、成田市に卸売市場が整備されるが、市ではどのように取り組むのか。
答 市でも海外は有望な販路開拓先と認識しており、国や県と連携し、輸出の意思を持つ農家を支援していく。

【意見】廃藩後に生産された佐倉茶は、明治時代にはニューヨークに輸出された事もあり、佐倉の農産物が世界に通用できるよう支援をしてほしい。